

(Ⅳ－44) 中国上海市における流動人口の現状と問題点

群馬大学大学院 ○ 学生員 沈 春詩
 群馬大学工学部 正 員 青島縮次郎
 群馬大学工学部 正 員 磯部 友彦

1. はじめに

文化大革命が終息し、1978年に入ってから中国は大きく変わった。それは社会主義の本質にかかわる歴史的決定が行われたことである。市場原理と価格メカニズムの大胆な導入による経済の活性化が図られ、農村においては人民公社の解体と生産責任制の導入が行われた。また、1980年には中国固有の戸籍制度を基礎とし、人口移動については厳しく規制しながらも、流動人口については比較的自由にするという2本立ての方針に変化している。その主な内容は第1に、農村から大都市への移動は厳しく規制するが農村間の移動に関する規制は事実上緩やかにすること。第2に、農村の余剰労働力を解決するために農村居住者の鎮への移動が許可されたこと。第3に、今までは都市へ居住地を変えたり、特定の場合を除いては戸籍を動かすことができなかったが、ある一定期間は可能になり、さらには都市での「暫住人口」としての臨時戸籍を得ることができるようになり、以前に比べ都市と農村の行き来が自由に行われるようになったことの三つである。都市では個人企業が労働者を自由に雇い、賃金も自由に決めることができる。農村では農民が自由に生産物を選択し、供出義務を越えた生産物は自由市場で販売できるようになり、農業以外の副業も自由になった。以上のことによって、農村から都市へ、都市から都市へ、都市から農村へ、農村から農村へという流動人口が一段と増えてきた。

流動人口とは定住地から離れて、移動しながら様々な活動をする人口のことであるが、本研究では中国上海市を対象とし、流動人口の増加により悪化する交通問題・住宅問題の現状と対策について述べる。

2. 上海市における流動人口の現状

上海市は中国第一の都市である。北京市、天津市とともに3大特別都市として、省と同格の行政単位になっている。1991年統計年鑑によると市の総面積は6341km²、その中で市区と呼ばれる中心地域の面積は748km²で、常住人口は市域全体で1283万人、そのうち中心市区が784万人である。また、多様な目的で上海に集まる流動人口の数も多く、世界有数の超過密経済都市である。

表1は上海市の近年の流動人口の状況であり、流動人口の増加率は毎年平均10%以上となっている（常住人口の増加率は毎年平均1%）。表2は流動人口が上海で滞在している時間の分布である。四日～半年の滞在人口が一番多く、また半年以上滞在している人はただ戸籍がないだけで、実際には都市の常住人口と同じように生活している。

表1. 上海市における近年の流動人口状況^{*)}

年度	1981	1984	1985	1986	1988
人数(万人/日)	62	75	110	111	125

表2. 流動人口の滞在時間分布^{*)} (%)

三日以下	四日～半年	半年～五年	五年以上	合計
15.6	45.2	32.9	6.3	100.0

表3は上海に来る流動人口の目的別構成比である。これをみると、経済型の理由が一番多い。つまり中国では都市と農村に経済的な格差があり、多くの農村の人々は都市での仕事を求めているのである。社会型というのは、旅行、親戚の訪問、病院での治療などであり、学習型というのは修学、会議、研究などを指している。

ところでこれらの流動人口は都市に対して大きな影響を与える。表4は上海市流動人口の住所分布であり、

表3. 目的別流動人口構成比^{*)}

目的	経 済 型							社会型	学習型	その他	合計
	建築	技能、工芸	家政婦	商売	農業	その他	小計				
人数(万人)	29.4	10.2	1.7	13.5	4.4	24.9	84.1	28.5	5.5	6.5	124.6
構成比(%)	23.6	8.2	1.4	10.3	3.5	20.0	67.5	22.9	4.4	5.2	100.0

表4. 上海市(全市)の流動人口の居住地分布^{*)} (%)

	市中心区	一般街道	辺縁街道	近郊農村	遠郊農村	県 属 鎮	農 場	合 計
1986年	17.6	20.0	26.8	14.2	9.7	8.2	3.5	100.0
1988年	12.3	13.8	30.2	21.7	15.1	4.8	2.1	100.0

流動人口が一番集中してきているのは市中心部から離れて、郊外に隣接する所である。その地域は空家が市中心部より多く、生活費は市中心部より安い。そしてまた、行政の管理も市の中心部より緩いからである。

3. 問題点の検討

都市への流動人口は複雑な社会現象の一つである。それは、ほとんどが農村から仕事を求め、都市へと入ってくる人々であり、都市にプラス面もある一方、マイナス面ももたらす。

流動人口は、都市の社会基盤整備のための労働力を与えたり、都市での消費活動を増加させたりすることにより経済的な面に好影響を与える。しかし現段階では上海市の社会基盤の不足、都市計画の遅れ、予想以上の流動人口が交通問題・住宅問題等を悪化させ、都市活動を圧迫する面も持っている。以下、交通問題について見てみよう。

流動人口のほとんどは活動する際に公共交通機関を利用する。そのため、都市交通全体の混雑状況は一層激しくなった。上海ではもともと交通輸送容量が不足していたが、上海市への大量流動人口によって、上海市の交通の混雑、渋滞、事故、公害などの問題がより厳しくなった。一人当たりの平均道路面積は僅か2m²となり、市内自動車の走行速度は約15km/hで、朝と夕方には主な交差点の渋滞長は1kmにも及んでいるために“走不動(走らない)”ということが上海における道路交通の大問題となっている。そのため唯一の公共輸送機関であるバスは一日の輸送人員が1700万人にものぼり^{**)}、朝の出動時間帯に、かなりの頻度でバスが運行されているにもかかわらず、市街部ではどのバスも超満員であり、バス停にも乗客が溢れているという結果になってしまっている。

4. 今後の課題

流動人口によりもたらされる様々な問題を解決するためには、経年的な各目的別流動人口と総流動人口の状態を把握する必要がある。また、中国の5ヶ年計画などにに基づき、都市への影響を考慮して各目的別流動人口の実需要数を予測することも必要である。そして、流動人口の影響を考慮した都市計画を行うためには、各社会指標、経済指標、環境指標などの資料を集め、分析、予測を行い、それに対する住宅対策や公共交通対策案を検討することが緊急の課題であると考えられる。

参考文献

*) 李 夢白、胡 欣等、「流動人口対大城市発展的影響及対策」、経済日報出版社、1991

**) 長谷川 明機、森田 緯之、「上海市の交通事情と都市高速道路」、交通工学、vol.27、No.6、p.55、1992